

第4次清川村総合計画基本構想（案） 新旧対照表

新計画（第4次）	旧計画（第3次）
<p><u>（削除）</u></p>	<p><u>1 基本理念</u></p> <p><u>村民と行政が力を合わせて、より良い村づくりを総合的に進めるため、「清川村民憲章」を基本理念に定めます。</u></p>
<p><u>1 将来像</u></p> <p>村民が思い描く将来の村の姿は、豊富な森林と美しい清流を保全し、良好な自然環境の中で、地域みんなの心が通い、支え合う暮らしを維持しながら、誰もが安心して暮らし、かつ、災害や犯罪の少ない安全な村です。</p> <p>これは、新（第2次）清川村総合計画から変わらぬ想いであり、<u>前(第3次)総合計画においても引き継がれてきました。</u></p> <p><u>第4次総合計画においては、これまで受け継がれてきた想いに加え、誰もが故郷への愛着を想起し、あたたかみのある村であり続けるため、目指す村の姿を次のとおり定めます。</u></p> <p>清川村の将来像</p> <p><u>水と緑あふれる心のふるさと</u></p>	<p><u>2 将来像</u></p> <p>村民が思い描く将来の村の姿は、豊富な森林と美しい清流を保全し、良好な自然環境の中で、地域みんなの心が通い、支え合う暮らしを維持しながら、誰もが安心して暮らし、かつ、災害や犯罪の少ない安全な村です。</p> <p>これは、新（第2次）清川村総合計画から変わらぬ想いであり、<u>よって、新清川村総合計画の将来像を第3次清川村総合計画においても引き継ぐこととします。</u></p> <p>清川村の将来像</p> <p><u>～水と緑の心の源流郷～</u></p>

<p><u>清らかな“水”</u></p> <p><u>宮ヶ瀬湖や丹沢の雄大な自然に育まれた清流が創り出す溪流美は、清川村の象徴です。</u></p> <p><u>豊かな“緑”</u></p> <p><u>丹沢山をはじめ、村を取り囲む数多の名峰が見せる輝かしい新緑や四季折々の表情は、清川村の魅力です。</u></p> <p><u>通い合う“心”</u></p> <p><u>村民が村を愛し、村を想う村民相互の絆は、清川村の誇りです。</u></p>	<p><u>そして、この将来像の実現に向け、世代・性別や分野を問わず、村民全員が村に強く関心を持ち、村の魅力を高めることを副題として表現します。</u></p> <p><u>副題 輝き・愛着・誇りを育む村づくり</u></p> <p><u>“輝き”とは、光り輝く村の魅力や希望を表しています。</u></p> <p><u>“愛着”とは、村を愛おしく思う郷土愛を表しています。</u></p> <p><u>“誇り”とは、県内で唯一の村など、村民が持つ誇りを示しています。</u></p>
<p><u>2 村づくりの理念</u></p> <p><u>将来像を実現するためには、村民どうしが、また、村民と行政が手を取り合い、共に歩んでいく必要があることから、私たちの共通の理解である「清川村民憲章」を基本的な理念とし、村づくりを推進します。</u></p>	<p><u>3 将来像の実現に向けて</u></p> <p><u>将来像を実現するため、これからの村の姿を、「空間像」、「村民像」の2つに分けて、その特徴を示します。</u></p> <p><u>それぞれの特徴をもとに、村民や地域に関与する個人や団体などと、行政とが、お互いの長を活かし協力し合う「協働」を進めることにより、村における生活の利便性の向上や村の資源を活用した産業振興などを実現するなど、村政の公共領域を再構築することで将来像の実現を目指します。</u></p> <p><u>(中略)</u></p>

3 将来目標人口

2035 年の将来目標人口を 3,000 人とします

2020 年国勢調査時点における我が国の総人口は 1 億 2,615 万人ですが、10 年後の 2035 年には 1 億 1,164 万人、50 年後の 2070 年には 8,700 万人まで減少すると言われています。一方で、村の 2035 年の総人口は、2,433 人と予想されます。特に、生産年齢人口の減少が大きく人口減少に歯止めがかからないという結果が出ています。さらに、今後は総人口の減少に加え、老年人口（65 歳以上）の割合が増加する一方、生産年齢人口（15～64 歳）の割合が減少するなど、人口構成比率にも大きな変化が生じるとされています。

第 3 次清川村総合計画では、過去の村の歴史のなかで人口バランスが維持され、最も村に活力があった時期（1990～2010 年）の人口規模である 3,500 人を目標人口に掲げてきました。しかしながら、全国的な少子高齢化や人口減少に加え、東京一極集中による地方の人口流出は留まるところを知らず、本村の総人口は 2020 年には 3,038 人となりました。

このまま人口減少が進めば、村の歳入の根幹である村税収入は減少し、住民サービスを維持できなくなるほか、学校などの公共施設やインフラの維持までもが困難となります。

4 将来目標人口

平成 35 年の将来目標人口を 3,500 人とします

村の将来人口を単純に推計（コーホート人口推計）すると、平成 35 年の総人口は 2,932 人（国勢調査人口）と予想されます。特に、労働人口の減少が大きいという結果が出ています。そして、長期にわたり人口減少が続くという結果でした。

過去の村の歴史の中で、人口バランスが維持され、最も村に活力があった時期（おおそ平成 2～22 年の 20 年間）の人口規模は、約 3,500 人規模（国勢調査人口）で推移していました。

即ち、この時期はバランスのとれた人口の年齢構成を維持し、地域社会やコミュニティなどの取り組みが活発に行われるとともに、幼稚園や小・中学校の教育体制が維持される中で、豊富な教育内容が提供でき、活力を持って教育が行える人口規模でした。また、この期間に整備が進んだ上下水道などの公共施設の容量を効率的に運用できる人口規模であり、村民への行政サービスを維持し運営するために、最低限の職員数を確保できる人口規模でもあります。

人口減少の予測結果がありますが、近年、若い世代の一部が自然環境にあこがれ、自然の中で子育てをしたいなどの理由から、村へ転入する動きが見受けられます。

<p><u>このようなことから、人口減少・少子高齢化に歯止めをかけ、現在の住民サービスを、同水準のまま維持するために必要な最低限度の人口規模として、また、これまでの総人口、交流人口の増加に向けた各種取組みを継続しつつ、恵まれた環境の中で安心して子育てができる環境づくりを進めることで人口構造を改善し、将来にわたって村を持続していくために維持すべき人口規模として、将来目標人口を 3,000 人と設定しました。</u></p>	<p><u>こうした動きは、国内社会全般の中で見られる、自然や山村生活に憧れた、山里回帰によるものです。</u></p> <p><u>この動きは村の転入人口からみればわずかな数字ですが、都市部から近距離にある村の位置に加え、アクセスも比較的に便利である一方、恵まれた自然の中にあることで観光資源に恵まれ、かつ公共施設が整っていることなど、人口増加の可能性を潜在的に秘めています。</u></p> <p><u>このようなことから、村民と行政が一体となり、村の魅力を高めるべき、協働で地域の活性化を図り、そして、恵まれた子育て環境の情報発信や水源地として都市部の交流などを積極的に行い、全村を挙げて取り組むことで達成できる将来目標人口を 3, 5 0 0 人としました。</u></p>
<p><u>4 特定地域土地利用計画</u></p> <p><u>本村の将来像である「水と緑あふれる心のふるさと」の実現には、豊富な森林と美しい清流を保全し、良好な自然環境を維持しながら、限られた村土を有効的に利用することで、移住・定住の促進と企業誘導による地域や経済の活性化、将来目標人口の確保といっ</u></p>	<p><u>5 土地利用の方向性</u></p> <p><u>豊かな自然環境を維持し、活力と魅力あふれる地域環境の形成を目指します</u></p> <p><u>山間地にあり、平坦地の少ない村域では、川沿いの緩斜地が住宅地や農地として利用されてきました。</u></p> <p><u>今後も、歴史的風土や農林地の保全、治山・治水、公害防止などに十分配慮しながら、将来目標人口の確保と優れた自然環境の維</u></p>

た活力と魅力あふれる地域環境を形成していく必要があります。

全域が都市計画法の都市計画区域外である村においては、適切な土地利用を図るため、神奈川県特定地域土地利用計画策定指針に基づいて定められた「清川村特定地域土地利用計画」において土地利用の方針を明確にし、「利用を検討するゾーン」と「保全すべきゾーン」を区分することで、村土の利用と保全のバランスを図りながら、総合的かつ計画的な土地利用を進めていきます。

過去の開発行為の状況や地理的条件などを総合的に勘案して設定した「利用検討ゾーン」は、公共の福祉を優先させる中で、住居系もしくは産業系の設置用途に応じた村の地域振興を目的とする関連施策を推進するために利用し、かつ、開発行為については積極的に「利用検討ゾーン」に誘導することで秩序ある土地利用を図ります。

持・創造に努め、地域の特性を活かしながら、活力と魅力あふれる地域環境の形成を目指します。

全域が都市計画法の都市計画区域外である村において、適切な土地利用を図るため、清川村国土利用計画及び神奈川県土地利用調整条例に基づいて定められる「清川村特定地域土地利用計画」に沿って、計画的な村づくりを推進していきます。

土地利用ゾーンのうち、煤ヶ谷地区では、将来目標人口に見合う土地利用を図るため、住宅建設や企業の誘致・誘導、公共施設の適正配置を進めるとともに、優良農地を保全しながらまとまった土地の利活用を検討するなど、生活環境、産業振興、環境保全が調和した総合的な整備を図ります。村役場周辺は村の核として、村民への公共施設サービスや観光客の利便性が向上するような環境整備を図ります。

宮ヶ瀬地区では、自然環境・水源の保全に配慮したうえで、首都圏住民の心の安らぎ・憩いの場として、自然と調和した秩序ある土地利用を図ります。宮ヶ瀬湖周辺は村の観光産業の集積地として適切な環境の整備を図ります。

<p>また、全域が丹沢大山国定公園及び神奈川県立丹沢大山自然公園に指定されていることをふまえ、「<u>保全ゾーン</u>」では水源地としての役割を果たすべく、森林が持つ水源涵養、土砂流出防止、地球温暖化防止、<u>生態系配慮などの自然環境の保全・創造を図ります。</u></p>	<p>また、<u>自然的土地利用ゾーンは</u>、全域が丹沢大山国定公園及び県立丹沢大山自然公園となっており、<u>その活用が規制されている地域</u>となっています。<u>これらの公園地域では</u>、森林が持つ水源かん養、土砂流出防止、地球温暖化防止など、<u>生物多様性の役割を重視しながら、優れた森林の保全・活用を進めていきます。</u></p>
<p><u>5 村づくりの方向性</u></p> <p><u>基礎自治体として取り組むべき施策を着実に推進することが求められていることに加え、村を取り巻く情勢の変化や多様化する地域課題への対応も求められています。</u></p> <p><u>そこで、本村が抱える諸課題に的確かつ柔軟に対応するため、基礎自治体として取り組むべき施策を6つの基本目標として定め、取組の方向性を明確化します。</u></p>	<p><u>6 施策の大綱</u></p>
<p><u>基本目標1</u> 自然と調和した<u>美しい村づくり</u></p> <p><u>村を取り囲む雄大な自然は、先人たちから受け継がれてきた村の誇りであり、かけがえのない財産です。これらの自然を適正に管理するとともに、水源地としての責務を果たすべく、適正な森林整</u></p>	<p>(1) 自然と調和した<u>住みよい村づくりの推進</u></p> <p><u>みんなが「住んでみたい」と思える村を目指し、積極的な土地利用のもと、定住促進や企業誘致などを進めるとともに、「住み続けたい」と思える村であり続けるため、自然保護や住環境、上・下水</u></p>

<p><u>備、特定地域土地利用計画に基づく適正な土地政策を図り、将来にわたって保全します。</u></p> <p><u>また、これら自然が創り出す景観を守り、健康的かつ衛生的な地域を形成するため、環境美化や公害対策等に取り組め美しい村づくりを推進します。</u></p>	<p><u>道、道路、生活交通などの整備と利便性の向上を進めます。また、村民とともに地域ぐるみで、防災や交通安全、防犯などに取り組め、安全・安心で快適な暮らしを維持し、自然と調和した住みよい村づくりを次世代へ引き継ぎながら推進します。</u></p>
<p>(想定される施策分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 土地利用 ○ 自然環境保全 ○ 環境・衛生 	<p>(主な施策分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 土地利用 ○ <u>移住・定住</u> ○ <u>企業誘致</u> ○ 自然環境保全 ○ 環境・衛生 ○ <u>公共交通</u> ○ <u>防災・減災・危機管理</u> ○ <u>交通安全・防犯</u>
<p><u>基本目標 2</u></p> <p><u>快適で安全・安心な村づくり</u></p> <p><u>安全でおいしい水道水の安定供給と、水源環境を保全するため上下水道施設の適正管理及び道路や橋梁等を含む各種インフラの老朽化に対する計画的な長寿命化を図ります。</u></p> <p><u>また、交通弱者や交通空白区間に居住する村民の生活の足を確保</u></p>	<p><u>(新規)</u></p>

<p>するため、<u>地域交通の維持確保に取組み、住みやすい村づくりを推進します。</u></p> <p><u>さらに、激甚化する自然災害や発生が危惧される大規模地震等への十分な備えと強固な防災体制を構築し、安全に安心して暮らし続けられる村づくりを推進します。</u></p>	
<p>(想定される施策分野)</p> <p>○ <u>住環境</u></p> <p>○ <u>生活利便性</u></p> <p>○ <u>防災・減災・危機管理</u></p> <p>○ <u>防犯・交通</u></p>	<p><u>(新規)</u></p>
<p>基本目標3</p> <p>生涯を健康で、<u>支え合いながら暮らせる村づくり</u></p> <p><u>高齢化の進行や、感染症の世界的な流行といった事態から、村民の健康維持に対する関心が高まっています。また、生活習慣や社会環境の変化に伴い、身体だけでなくこころの健康状態にも問題意識を持つようになっていきます。</u></p> <p><u>これらのことから、地域医療の確保・向上や各種健康診断、各種保健サービスを充実させることで健康寿命の延伸を図るほか、高齢者・障がい者福祉に加え、生涯学習・スポーツなどに親しみながら、生涯を通じて心身ともに良好で健康的に住み続けられる村づく</u></p>	<p><u>(3) 生涯を健康で安心して住み続けられる村づくりの推進</u></p> <p><u>みんなが「住んでみたい」「住み続けたい」と思える村づくりには、健康で暮らし続けられる環境の整備が必要不可欠です。そのため、健康づくりに取り組み、地域医療を確保・向上させるほか、各種保険サービスを充実させます。また、誰もが安心した生活を送れるように、高齢者福祉や障がい者福祉、地域福祉の取り組みを充実し、生涯を健康で安心して住み続けられる村づくりを推進します。</u></p>

<p><u>りを推進します。</u></p>	
<p>(想定される施策分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康維持・増進 ○ 地域医療 ○ 各種保険 ○ 福祉 <u>○ 生涯学習</u> 	<p>(主な施策分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康維持・増進 ○ 地域医療 ○ 各種保険 ○ 福祉
<p><u>基本目標4</u></p> <p><u>健やかに育ち、夢や希望が持てる村づくり</u></p> <p><u>社会情勢の変化などに伴い、共働きの子育て世帯の増加や物価高騰などによる経済的負担が増加しています。妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を行い、夢や希望を持って安心して子どもを育てられる環境、子どもが育つ環境を整備します。</u></p> <p><u>また、幼稚園、小学校、中学校が密接に関わりを持つ本村の教育特性を活かし、学校教育の充実や地域・家庭との連携を深め、伝統や文化の伝承、心豊かな学びの機会を創出します。</u></p>	<p><u>(4) 誇りを持って村を支える人づくりの推進</u></p> <p><u>子どもは村の宝です。高い水準にある子育て・保育サービスのさらなる充実に努め、村の将来を担う子どもたちが輝くような施策を展開します。</u></p> <p><u>また、村の特性を活かし、幼児教育や学校教育をさらに充実させ、幼・保・小・中学校の連携と地域・家庭などの協力により、心豊かな「清川っ子」を育む村づくりを進めるとともに、生涯学習・生涯スポーツ、本村の文化・伝統を継承して、生涯にわたって学び合える環境を整備し、誇りを持って、これからの村をリーダーとして支える人づくりを推進します。</u></p>

<p>(想定される施策分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て・保育 ○ 教育 ○ 文化 	<p>(主な施策分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て・保育 ○ 教育 ○ 文化 ○ <u>生涯学習</u>
<p><u>基本目標 5</u></p> <p><u>地域特性を活かした魅力とにぎわいのある村づくり</u></p> <p>村の特性に合った農業や林業の活性化を図り、<u>商工業と併せた包括的な産業振興により元気な村づくりを推進します。</u></p> <p>また、恵まれた自然環境や丹沢山、宮ヶ瀬湖をはじめとした地域資源を活かし、各産業と観光の連携により<u>地域の魅力を高めます。</u></p> <p><u>さらに、都心部へのアクセスの良さと豊富な自然環境が融合した地の利を活かし、U・I ターンの促進による人口維持対策と、企業誘導による地域経済の活性化を促進することで、新たなにぎわい・さらなるにぎわいを創出します。</u></p>	<p><u>(2) 地域の特性を活かした産業振興と活性化の推進</u></p> <p>村の特性に合った農業や林業の活性化を図り、<u>耕作放棄農地などの利用促進に取り組み、農業や林業、商工業の包括的な産業振興による元気な村づくりを進めます。</u></p> <p>また、恵まれた自然環境や丹沢山、宮ヶ瀬湖をはじめとした<u>森林や溪流、湖畔などの地域資源</u>を活かし、各産業と観光の連携による<u>魅力あふれる村づくりを進めます。</u></p> <p><u>そして、豊かな自然や子育て環境など、多くの魅力溢れる「清川ブランド」を地域セールスとして幅広く活用し、県内唯一の村として地域の特性を活かした産業振興と活性化を推進します。</u></p>
<p>(想定される施策分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 農林商工業 ○ 観光 ○ 地域セールス 	<p>(主な施策分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 農林商工業 ○ 観光 ○ 地域セールス

<p>○ 移住・定住</p> <p>○ 企業誘導</p>	
<p><u>基本目標 6</u></p> <p><u>村民と行政が共に歩む村づくり</u></p> <p><u>人口減少、少子高齢化が進行に伴う村税収入や国有資産所在市町村交付金の減額が見込まれる中、老朽化した施設の改修が必要となってくることに加え、デジタル化・先進技術の活用など行政サービスに対するニーズの多様化が求められています。時代に即したサービスの提供と財政の健全化・最適化を図り、持続可能な村政運営を推進します。</u></p> <p><u>また、行政だけでなく村民や事業者、各種団体等村づくりに関わる全ての人がそれぞれの役割と責務を認識し、共に行動して支え合う環境づくりと、新たな時代の新たな課題に対応できる柔軟な関係性を構築します。</u></p>	<p><u>(5) 村民と行政が築く村政の推進</u></p> <p><u>地方分権や社会の成熟化による村民ニーズの多様化から、その全てに行政が関与することが難しくなってきた中、村の持つ地域力・コミュニティ力をさらに向上させることで、多様で適切な公共サービスの実現を目指した、村民みんなで取り組む参画と協働の村を築いていきます。</u></p> <p><u>また、効率的で効果的な村政運営に必要な継続的な行政改革、公共施設の長寿命化対策、自治課題の調査研究、広域行政を進めることで、新たな時代に対応した、村民と行政が築く村政を推進します。</u></p>
<p>(想定される施策分野)</p> <p>○ 地域コミュニティ</p> <p>○ 協働</p> <p>○ 広報広聴</p> <p>○ 行財政運営</p> <p>○ 広域行政</p>	<p>(主な施策分野)</p> <p>○ 地域コミュニティ</p> <p>○ 協働</p> <p>○ 広報広聴</p> <p>○ 行財政運営</p> <p>○ 広域行政</p>

